

佳作

夢はかっこよくて元気を届ける農家

秋田県大潟村立大潟中学校

1年 山崎 健太

将来の夢は、祖父の跡を継いで農家になることです。小さい時に大型トラクターやコンバイン、田植え機に乗せてもらい、それがすごく楽しくて運転している祖父をかっこいいと思ったのが農家になりたいと思ったきっかけです。

祖父は大潟村で食用のお米、お酒用のお米、豆、家族が食べる野菜を作っています。

3月の土合わせからお米作りは始まります。春休み中なのでぼくも手伝います。スコップを使い、肥料と土を合わせます。力を使う仕事なので、小さい頃はほとんど役に立っていなかったと思いますが、今は祖父と同じくらいの時間で仕上げられるようになりました。学校が始まると、なかなか手伝うことはできませんが種まきや田植えは人手がいるので時間を見つけて手伝っています。

ゴールデンウィーク中は、田んぼでゴミ上げを手伝います。前の年に畑だった田んぼでは、大量の豆の殻や枝が風に吹かれて田んぼの角に集まるので、これを田んぼの外に出します。田んぼの横に長くゴミが続いている時は、ゴミを50メートルくらい引っ張ってゴミ上げをするので大変です。種まきは、農舎の中で種をまき、それを軽トラックに並べて載せます。そしてハウスまで運びハウス内で苗箱を1枚ずつ並べます。田植えの時は、ハウスにある苗をダンプに載せます。苗が大きく重くなっているため、落とさないように丁寧に載せていきます。田んぼに着いたらダンプから苗を下ろして、田植え機に載せるのがぼくの仕事です。今年の田植えの時に祖父にフォローしてもらいながら田植え機を運転しました。乗せてもらうのはいつものことですが、運転は初めてでした。目印を頼りに曲がらないように運転したつもりでしたが、後でぼくが植えた所だけ曲がっていました。改めて祖父はすごいと思いました。

豆畑は、除草剤をまいても草が生えてしまいます。夏休みが草取りの絶好のタイミングなので手伝います。作業は単純で、ひたすら草を取ります。ぼくは、この仕事を汗だくになりながら行きます。もっとも大変な作業です。祖父は草取りの他にも田んぼの水管理や草刈り、消毒などをこまめにして、ようやく稲刈りの時期を迎えます。ぼくが楽しみにしているのは、収穫した新米で作るおにぎりです。祖父は、家族で食べる分だけを乾燥してから精米してくれます。お米がキラキラに輝いて本当においしいです。

ぼくが手伝っていることは、ほんの少しなので申し訳なく思っているのです

が、祖父が「手伝ってくれてありがとう。」と言ってくれるので、やりがいを感じるし、とてもうれしいです。

高校は、農業高校に進学したいと思っています。高校で農業を基礎からしっかり学び、卒業後は、就農したいと思っています。祖父は就農して50年以上になる大ベテランです。祖父のような農家になるには、たくさんの経験が必要だと思います。

祖父のような農家になるだけでなく、新しいことにもチャレンジしたいと思っています。祖父はパソコンが苦手なので、今から新しいことに取り組むつもりはないと話していましたが、ぼくはスマート農業というロボット技術や情報処理技術などの最先端技術を導入した農業をやってみたいです。実際にぼくが見たことがあるのは、自動運転で動くロボットトラクターです。人が乗っていないのに田んぼを起こして、衝撃を受けました。もう1台は、人が運転するのですが、オペレーターが一人で二人分の仕事ができる、すごく効率がよいものです。他にもドローンを使って薬をまいたり、データ収集をもとに病気の予測をしたりすることで収穫量を上げることができるそうです。農業はやり方次第で可能性は無限にある分野だと思います。スマート農業と今の農業を上手に組み合わせて、祖父のようにかっこいい農家になりたいです。

ぼくが今やるべきことは、祖父の手伝いをしながら、経験を積み、高校に入るためにしっかり勉強することです。そして農業に従事するようになったらぼくが心を込めて作ったお米や野菜を食べてくれた人が元気になったり、笑顔になったりしてくれたらうれしいです。お酒が飲める年齢になったら、ぼくが作ったお米でできたお酒を祖父と飲めたらいいなと思います。農家として大先輩の祖父にぼくが作ったお米やお酒をおいしいと言ってもらったら最高です。祖父だけでなく、祖母や母、姉もぼくを応援してくれています。家族の支えがあって今のぼくがあります。これからもいろいろな人へ感謝の気持ちを忘れず、自分の将来のために頑張っていきたいと思っています。